

音楽科 学習指導案

齊藤 豊（授業者）

2

授業実践の記録と分析

音楽

1. 基本情報

- ・日時：2016（平成28）年12月5日（月） 第3校時（45分）
- ・場所：東京学芸大学附属世田谷小学校 別館3階 集会室
- ・学年：第6学年 37名（男子18名，女子19名）

2. 題材名

「最後の音楽会 ― これまでの音楽経験を生かして演奏しよう」

演奏曲：〈風林火山〉作曲：千住明 編曲：小島里美

〈ルパン三世のテーマ〉作曲：大野雄二 編曲：ダイヤモンド・ユカイ

〈銭形マーチ〉作詞：中山大三郎／作曲：大野雄二

3. 題材について

3.1 題材設定の理由

(1) 教科からみた特性

「最後の音楽会」では，これまで経験してきた様々な音楽活動を生かし，自分たちで決めた“演奏したい曲”を，時間をかけて仲間とよりよい演奏を目指して活動する。活動のはじめには，自分たちが経験してきた音楽活動のことや，これまでの6年生の音楽会での演奏に接して感じてきたことを振り返りながら，自分たちの音楽会に向けての活動を進めている。この話し合いをもとに，順次活動を展開していく。

- ① 選曲
- ② パート決め（担当楽器決め）
- ③ 練習（個人練習，パート練習，分奏，全体練習）
- ④ 音楽会準備（音楽会実行委員，司会者，他の学級との演奏順などを決め，音楽会を前項に告知し（全校朝会で案内する）聞きにくる学級を募る）
- ⑤ リハーサルを経て迎える本番での演奏

大まかな流れは教師が示しつつも，自分たちで表現活動を展開することによって，一人一人が音楽により主体的に関わろうとする心情を育みたい。

(2) 汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

子供たちが自ら演奏する曲を選択することによって，主体的な取組みを促している。そこから，どのように演奏していくかという課題を見だし，問題解決力の育成へと発展していく。また，「音楽会で発表する」という真正な課題を設定することにより，技能を習得しながら，よりよい表現を目指す，感性・表現・創造の力を育むことが期待される。それは，「最後までやり抜く」といった困難を乗り越える力や「より良い演奏にしたい」という向上心の涵養につながるものと考えられる。

学習を進める中で，指揮者の意見を聞いたり他のパートの音を聴いたりすることによる，音楽科ならではの他者の受容・共感・敬意も生まれる。自分の役割を意識し，全体の響きを感じ取りながら演奏を思考していくという，音を通したコミュニケーションや協働する力の育成が企図されている題材である。

3.2 題材の目標

(1) 音楽科としての目標

- ・音楽会に向けて，これまでの音楽経験を生かし，仲間と息を合わせて演奏する楽しさを感じながら主体的に活動に関わる。

- ・自分たちで選んだ曲の曲想をとらえ、仲間と表現の工夫をしながら、よりよい演奏を目指して活動する。
- ・自分の課題や、よりよい演奏のための工夫点を見出し、そのための練習の方法など、今自分たちに必要な活動をどのように取り組めば良いかを考える。

(2) 新しい教育モデルとして重点的に育成すべき内容

①汎用的スキル (Skills)

- ・どのように表現するかを思考・判断する問題解決力、曲想にふさわしい表現を工夫する感性・表現・創造の力を育成する。
- ・指揮者の意見を聞いたり、互いの音を聴き合ったりしながら、協力して音楽をつくりあげたり自らの表現に生かそうとする協働の力を育てる。

②態度・価値 (Attitudes and Values)

- ・全体の響きを聴き合い、自分の演奏の仕方を工夫し、よりよい表現を目指す困難を乗り越える力と向上心を育てる。
- ・協力し合って演奏の質を高めようとする、協力し合う心の育成を図る。

3.3 児童の実態

本学級の子供たちは、自分の内面を表に出すことに対して消極的である。発達段階による影響も多分にあるが、それ以上に5年時の仲間関係のもつれが尾を引いている。男女問わず小さなグループが存在し、交わることがあまりなく、一方で固定的な人間関係の中で常に駆け引きを行っていたため、相互の信頼関係を築くことが難しかった。6年生になり、様々な行事や学習活動を経験し、成長に伴ってグループの構成にも変化が生じ、互いが見えてくるようになった。しかし自分のできないことを仲間と学び合いできるようになっていくことは、まだできていないのが現状である。

子供たちは音楽活動に希望を見出している。なぜなら昨年の音楽会での成功体験があるからである。昨年の活動では、音楽会の本番近くなった頃、仲間との関係を超えて演奏をよりよくすることに全員が気持ちを向けて活動することができた。今回もその経験を生かして、自分たちで演奏ができていくことを味わいながら活動を進めたい。その中で、できないことが仲間と交流しながら取り組むことでできるようになる充実感や、できていく仲間と一緒に喜べる関係づくりを経験させたい。

3.4 教材観

(1) 演奏する楽曲について

①〈風林火山〉 作曲：千住明 編曲：小島里美

本学級では歴史に興味を持っている子供が多い。大河ドラマも話題となり、先に行われた学校の文化行事でも、歴史を題材にした映画づくりに取り組んだ。オーケストラの曲に挑戦したいと思い、大河ドラマのテーマ曲ということで票を集めた。

副旋律との重なりを感じながら演奏する点が難しく、厳かな戦国のイメージを表現するためにどう工夫をすればよいか、速さや強弱を軸に考える場面を期待できる。

②〈ルパン三世のテーマ〉 作曲：大野雄二 編曲：ダイヤモンド・ユカイ

5年生の教科書にも編曲が掲載され、別の編曲を聴いて、そのよさにあこがれて選んでいた。3年前に同じ編曲で6年生が演奏したことを覚えている児童もいて、難しいドラムのリズムに挑戦したいという意見も出されていた。「ルパン三世」トリビュートアルバム『LUPIN THE THIRD TRIBUTE ALBUM YOU'S EXPLOSION』から、ダイヤモンド・ユカイが編曲した〈ルパン三世のテーマ〉に基づいている。ギターのソロをカットしたり、イントロをオリジナル版に替えたりして編曲した。

③〈銭形マーチ〉 作詞：中山大三郎 作曲：大野雄二

この曲も前述のアルバムから選曲・編曲した。もとは三波春夫が歌っているが、ここではロック調の編曲で、アニメタルの坂本英三と声優の森川智之がバンドで演奏している。ヴォーカル担当が出ることを条件で候補に残したところ、名乗り出た男子児童の言葉に賛同して決定していった。人数が少なかっ

たこともあり、指揮者を立てず、ヴォーカルの児童が練習を進めていくことになった。

(2) 電子キーボードを使った合奏活動

本校の音楽科では、電子キーボードを多用した合奏を行っている。ある程度合奏ができるようになった時点から、ミキサーに通し全体に聞こえるようにスピーカーから音を出すようにし、子供たちがモニターしながら合奏できるようにしている。

リコーダーやアコーディオンなどのアコースティック楽器は、電気を通した音よりも繊細で、演奏者の技能が表現に直接表れるため、より表情豊かな演奏をすることができる。しかし、演奏の困難さによっては、子供たちが合奏の楽しさに到達するまでの道のりが長すぎる場合がある。電子キーボードの多様な音色の組み合わせにより、様々な曲調の音楽を演奏できるため、子供たちが演奏してみたい曲を、よりイメージに合ったサウンドで演奏を楽しむことができる。

本校音楽科では、このような特長を生かし電子キーボードとともに、マリンバなどの鍵盤打楽器や鍵盤ハーモニカなども使いながら、合奏を行っている。

(3) 選曲を子供がする良さ

5年生の音楽会と6年生の音楽会に向けての活動では、各学級で演奏する曲を子供たちが選んでいる。自分たちで選曲することで、演奏会が自分たちの発表会であることをより強く意識して活動を進めていくことができると考えているからである。

子供たちから演奏したい曲を募集する際には、次のような視点を提示した。

- ① 好きな曲であること
- ② 音楽室にある楽器で演奏しても演奏効果が得られそうな曲であること
- ③ 技術的に演奏可能である曲であること
- ④ 演奏できる頃に流行っていなくてもよい曲であること

集まった曲の中から教師が10曲程度に候補を絞り、さらに下記の視点で子供たちが評価し、演奏するという立場で感想を書き、話し合いを通して最終決定した。

- ① お気に入りの度合い（その曲に対する印象の度合い）
- ② 演奏できそうな度合い（技術的に演奏可能かどうかの度合い）
- ③ 演奏したい度合い（音楽会で演奏したいと思うかどうかの度合い）

本年度は全員で1曲、2グループでそれぞれ1曲を演奏することに、組み合わせを考慮して決定をした。自分たちの意志で決めた曲であるため、紆余曲折はあってもあきらめずに取り組めると考えている。本活動は、長い期間をかける活動であるため、選曲に子供の意志を反映させることに重点をおいて指導計画を立てている。

(4) 子供が指揮をする良さ

本活動では指揮者を子供が担当する。指揮者は教師がした方がよりよい演奏になると考える方が一般的であろう。しかし、子供たちにとっては、教師の指導によってできるようになった一糸乱れぬ演奏よりも、自分たちで練習してきた最後の成果を出し切る演奏の方が、迫力や気迫を感じられる演奏になる。指揮者も楽器を演奏する子供たちと同様に様々な難しさを乗り越えていく。見やすい合図の出し方や、演奏をまとめていくことに悩みながら、演奏する仲間に指示を出したり意見を聞いたりする。毎時間の練習計画も、指揮者が中心になって決定している。こうして演奏ができあがっていくことで、演奏する醍醐味を子供たちが味わい、生涯にわたって音楽を愛好し自ら音楽に働きかけていくようになることを願っている。

3.5 指導上の工夫（アクティブ・ラーニング活用方法も含む）

学習感想をもとに練習の仕方を子供と決めながら授業を進める

合奏に入ると、授業の最後に学習感想を小さな紙に書くようにしている。次時の始めにそれを1枚の用紙にまとめたものを読み合い、本時の練習の流れを子供たちと決めている。始めの頃は個人練習の時間を多くとっていたが、徐々に合奏をする時間を多くとるようになっていった。教師からも、部屋を分けて合奏の練習をする“分奏”を提案したり、合奏の場面でも同じ旋律を奏しているパートを取り出して合わせたりするなど、より小さな集団で息が合っていることを実感できる練習方法を経験させながら、“合わせていくための方法”をつかめるようにしている。

3.6 題材の評価計画（評価規準（・），評価方法（★））

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
- 自分たちで演奏する曲の選曲に進んで取り組もうとしている。 - 音楽会に向けた練習に主体的に取り組もうとしている。 ★活動する姿 ★学習感想の記述	演奏する曲の曲想を感じ取り、音色の組み合わせや、リズムの感じ方などを仲間と共有しながら表現の工夫をして、どのように表現したら良いかについて、自分なりの考えをもっている。 ★表現の変化の様子 ★学習感想への記述	自分の担当のパートを演奏する技能を身につけている。 ★演奏の実際	- 曲の構成や、音色の重なり、リズムの面白さなどに着目し、自分なりの言葉で表現し選曲に生かしている。 ★選曲シートへの記述 - 演奏する曲の音色やリズム、速度や和音の響きなどを聴き取り、音楽を特徴付けている要素で自分たちの演奏に生かせる点を探しながら聴いている。 ★学習感想への記述

3.7 題材の指導計画（全26時間）

時間	主な学習活動（時間数）	教師の指導・評価・留意点
第1次 (4時間)	●音楽会に向けての思いを交流する（0.5） ●選曲に向けての流れを理解する（0.5） ●第1次選考に残った曲を聴きながら、選曲をする（3）	- これまで聴いてきた6年生の音楽会や、昨年度自分たちが経験をした5年生の音楽会を思い起こしながら、最後の発表会で目指したいことを交流し、自分なりの目標をもてるようにする。 - 評価の観点を示し、自分たちが演奏することをイメージしながら選曲できるようにする。
第2次 (2時間)	●〈風林火山〉のパートと楽器を決める（2）	- 楽譜を見ながら原曲を聴き、自分の演奏したいパートを見つけたうえで楽器を決めるようにする。 - 指揮者をはじめに決める。指揮者は子供と相談をしながら選挙で決める。
第3次 (4時間)	●指揮者を中心に練習計画を立て、練習をする〈風林火山〉	- 個人練習や合奏の時間配分を、授業のはじめに話し合っで決定する。 - 前時を思い起こしながら（学習感想を一覧にしたものを配布）、本時の課題を明確にし、練習を始める。
第4次 (1時間)	●〈ルパン三世のテーマ〉〈銭形マーチ〉のパートと楽器を決める（1）	- 演奏したい曲を選び、その中でパート分担をする。 - 楽譜を見ながら原曲を聴き、自分の演奏したいパートを見つけたうえで楽器を決めるようにする。 - 指揮者を決める。指揮者のみは子供と相談をしながら選挙で決める。
第5次 (4時間)	●時間配分を決めて、グループ合奏を練習する ・繰り返しの確認をしよう ・曲に合った音色を選ぼう ・ヴォーカルの歌いやすい調を探そう〈銭形マーチ〉	2つの教室に分かれて練習をする。第1音楽室で本番と同じ楽器を使うことができるが、他の教室では交代しながら練習をするので、個人練習が主体となる。指揮者がリードしながら自分たちで練習を進めるようにする。

第6次 (7 時間) 本時 = 5/7 時間目	●時間配分と課題を明確にして練習をする ・各パートを弾けるようにしよう ・同じパートで合わせて弾けるようにしよう ・他のパートの音との重なりを感じながら演奏しよう ・主旋律が聞こえるように強弱をつけよう ・曲想にあった速さを共有して演奏しよう ・曲想に合った表現をするための強弱を考えて演奏しよう	・指揮者とヴォーカルで予定を提案し、意見を募って練習の時間配分と練習内容を決めるようにする。 ・同じ楽器やパートで教え合い、一緒に合わせながら練習をする。 ・話し合いばかりにならないように、どのような演奏にしたいかという課題が明確になったら、演奏をして変化を確かめるようにする。 ・変化を実感できるように、同じ箇所を繰り返して合わせるなどして、よりよくなった感じを共有できるようにする。
第7次 (4 時間)	●楽器を会場に下ろしてリハーサルをする ・会場づくりと楽器の移動を協力して行う ・会場の音の響きに慣れよう ・舞台への出入りや、礼のタイミングなどのリハーサルをして、音楽会への気持ちを高めよう ・音楽会実行委員会を中心に、音楽会の進行を考えよう ●本番で演奏する ・本番の緊張を楽しみながら演奏しよう ・他の学級の演奏を聴こう ●楽器を片付け、演奏会までの道のりをふり返る	・音楽会実行委員会を各学級で決め、演奏順や司会進行の仕方を考える。 ・舞台に楽器をセッティングし、音響設備を整え、本番と同じように音が聞こえるようにしてリハーサルをする（楽器の移動は授業時間外）。 ・舞台への出入り、セッティング替えの手順、マレットやスティックの受け渡し方法、礼のタイミング等は教師が指導し、演奏会の体裁を整える。 ・できるだけ子供たちが自分たちで会を進められるよう、教師が支援する。 ・音楽会までの長い取り組みの過程をふり振り返りながら、本活動で得たこと、感じたことを交流する。（楽器の片付けは授業時間外とする）

4. 本時

4.1 本時の目標

- ・〈風林火山〉の[E][F]の主旋律を意識し、音量のバランスに気をつけて演奏する

4.2 評価規準

- ・音楽会に向けての練習に主体的に取り組もうとしている（音楽への関心・意欲・態度）
- ・旋律を意識し、より旋律が際立つよう音量を工夫して演奏する（音楽表現の創意工夫）

4.3 前時までの学習者

- ・選曲の際、子供たちか多くの候補曲が上がらなかったもので、教師の方からも候補曲を提示した。〈風林火山〉と〈銭形マーチ〉はその中の曲だった。
- ・グループ合奏の曲はどちらもドラムが入っており、担当の2人が個人練習でかなり叩けるようになることで、全体の合奏への意欲が高まっていった。
- ・〈銭形マーチ〉はヴォーカルの調が定まらず、2回楽譜を刷り直した。電子キーボードは移調機能で対応したが、マリンバは2回目の印刷譜で練習し直している。
- ・自分のペースで練習を進めたうえで授業をしたい子供が多い。男子の一部は、主体的な練習への取り組みができないことがあったが、通して演奏できるようになってきた頃から、教え合ったり仲間に尋ねたりしながら取り組む姿が増えてきている。
- ・前時から、より曲想にあった表現への意見が出始めている。〈風林火山〉の指揮者から、「出だしのところをもっと合わせて、曲の雰囲気を出したい。」という提案があった。まだできてはいないが、ミーティング時に教師からふり返りとして投げかけたい。
- ・前時、〈風林火山〉の[E][F]の部分がなかなか合わず、何度か通して感じがつかめるようになった。まだ混沌としているので、本時はここを中心に練習をするだろう。
- ・前時はグループの合奏（楽曲②③）に多くの時間を割いていた。本時では1回ずつ通す程度にし、互いの演奏を聴き合うことにするだろう。

4.4 準備物

- ・学習感想一覧（子供の学習感想を縮小して一枚にまとめて印刷したもの）

4.5 本時の学習指導過程

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	1. 子供たちと本時の課題を確認し、時間配分を決める ・〈風林火山〉を中心に合わせていきたい ・[E][F]の部分がまだ合わないので合わせたい ・今回はグループ合奏に時間をかけたので、〈風林火山〉を中心にして練習したい	・練習の中心に据える曲と時間配分だけでなく、そこで何を練習するかを考えてから合奏の準備をするようにする ・前時のふり返りをし、曲想をどうやって表現すれば良いかの見通しをたてさせたい (〈風林火山〉の冒頭部分や[E][F])	
準備 5分	2. 合奏の準備をする。 ・個人の練習と、同じパートで合わせるなどしながら、合わせる準備をする	・同じパートで、できていないところの確認をする ・指揮者に課題解決のポイント(旋律が聞こえるよう、音量を工夫することで演奏がまとまる)を伝え、変化を皆が実感できるまで合わせるよう促す	★音楽会に向けての練習に主体的に取り組もうとしている(音楽への関心・意欲・態度) [準備をする姿]
展開1 25分	3. 〈風林火山〉を合わせる ・まずは通して演奏したい ・出だしの感じをもっとかっこよくしたい ・[E][F]の部分がうまく合わせられない ・伴奏の人はもっと小さな音で演奏したらどうだろう ・旋律の人はもっと大きな音を出せませんか ・みんな旋律が聞こえるようになりましたか ・どの旋律が主旋律かわからないんだけど ・戻るときに旋律が聞こえなくなってしまっているから直したい	・本時の課題を確かめながら通して演奏するようにする ・課題を共有し、練習する中で演奏が変わったことを実感できるまで繰返し演奏させたい ・PAを使い、ある程度音量補正をするが、子供の演奏の変化で旋律が聞こえるようにする ・強弱の変化を実感できるよう、教師がリードして最後の3小節間を様々な大きさに演奏し、考えるきっかけをつくる ・聞き役を立てて、変化している点や問題点を見いだす方法があることを提示し、子供たちの必要に応じて練習方法を試せるようにする	★旋律を意識し、より旋律が際立つよう音量を工夫して演奏する(音楽表現の創意工夫) [演奏する姿、学習観への記述]
展開2と まとめ 10分	4. グループ合奏をして互いの演奏を聴こう ・1回ずつ通してお互いの演奏を聴きたい ・思っていたより良い演奏で驚いた ・もう少しテンポを上げた方がかっこいいと思う 5. 学習感想を書く	・互いの演奏を聴いて、感想を交流する場を設ける ・小さな用紙に要点を絞って学習感想を書く	

4.6 板書計画

風 → 強弱を考えよう ○出だしをかっこよく ・雰囲気を出す ○[E][F]の部分を合わせる ・旋律が聞こえるように ○最後をキメる	ル ○テンポを上げる 銭 ○もっといい音色にしたい ○ヴォーカルもっと大きな声で
--	--

4.7 会場図 (第1音楽室)

